



丹波市の未来をえがく

Vol. 8
(最終号)

～丹波市未来都市創造審議会 通信～

【第8号】2019年9月10日発行

会議の詳細は
丹波市ホームページ



8月7日（水）に丹波市の未来を描く、丹波市未来都市創造審議会（第7回）を開催しました。審議会では、パブリックコメントの結果も踏まえて、答申に向けて「まちづくりビジョン」のとりまとめを行いました。今回の審議会をもって審議会における審議を終了しました。

8月22日（木）には「まちづくりビジョン（案）」について市長へ答申が行われました。

■パブリックコメントの結果について

6月24日（月）～7月26日（金）までの期間において、広く市民の皆様から意見や提案を求めるため「まちづくりビジョン（原案）」に対するパブリックコメントを実施しました。

いただいた意見や提案とそれに対する市の考え方は、市ホームページに掲載しておりますのでご覧ください。（意見等の提出人数4人、意見等の件数9件）

丹波市ホームページ
(パブリックコメント結果)



■第7回審議会を開催しました

8月7日に開催の第7回審議会では、これまでの審議及びパブリックコメントの結果を踏まえて、答申に向けて「まちづくりビジョン」の最終確認が行われました。

丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン（案）」の策定に関して、第7回審議会をもって、平成30年4月20日の第1回から行ってきました審議会における審議を全て終えました。

審議を終えて次のとおり委員より感想をいただきました。

<委員の主な感想（要旨）>

中心的なエリアが定められ、その周囲については最先端の技術を使いながら上手く暮らしていけるようにしたいという気持ちを持って計画ができ、嬉しく思う。

今後、情報通信技術が進み、社会が大きく変わるとともに産業構造も変わっていく。まちづくりの中で生き方をどう考えていくかが重要だと思う。このような意識を持ってこれから取組んでいきたい。

様々な意見や考えを否定するのではなく、面白いと考へて、何とかしていこうという姿勢で協働していくことができれば、様々な発想で新しい丹波市づくりができるのではないかな。

今いる人で地域を守る、活気づけることが大事だと思った。いま住んでいる人やこれから住む人が大事にされ、安心して暮らせるような未来が描けたらいいと希望を感じた。

夢と希望が持てる、ワクワク感のある会議だったと思う。このビジョンを踏まえて、市が次の第一歩をどのように進めていくのか、大変興味がある。

今後、丹波市がどのような方向に進んでいるのか見定めながら、観光施策など発想の転換も必要と思う。20年後の将来を楽しみにしている。

(裏面につづく)

何をすることも実を結ぶには、仕掛けをしていくことが大事だと思う。若い世代につながるような取組、未来を見据えた取組を進めていかなければいけない。

技術的な変化や様々な変化とともに人間の意識、暮らし方、生き方が変わってくると思う。小中学生に意見を聞くのも面白いと思うので、個人的な視点でいろいろな活動に関わっていきたい。

1日の終わりに「今日も幸せに過ごせた」と思うことが翌日、1か月、1年…10年20年と続くことにより、丹波市があり続けると感じた。

人材不足は喫緊の課題だが、変化に対応できる地域、守るべきところは守る地域を行政と一緒に考えて考えなければならないと感じた。

皆さんの想いを聞いて、これまでの審議でかなり議論がされており、住民の想いがたくさん詰まったビジョンになっていると改めて感じた。

努力、発想の転換を行い、みんなが一緒にできることをやっていかなければ、地域の持続性を守っていくことができないと思う。

<会長より総括>

長期間の審議により議論を深められ、自分たちのこととしても議論し合うことができたと思う。縮退していく中で活力をいかに保持していくかということは日本全国の多くの地域が抱えている課題であり、その先端を丹波市が走りながら、新しい提案のまちづくりができればと思う。審議会に参加された方々には、是非、活動を地域の方々に引き継いでいただいて、地域づくりを進めていただきたいと思う。

■丹波市未来都市創造審議会より答申が行われました

8月22日には、丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン（案）」について、本審議会の角野幸博会長と大野亮祐副会長より市長へ答申書が提出されました。

<答申時の懇談内容（抜粋）>

会長：この「まちづくりビジョン」策定の試みは、全国的にも新しいものであると思う。広範囲で小さな集落をたくさん抱えた地方都市での再編のあり方について、審議会では情報整理とディスカッションにより方向性を共有できたことは良かった。

副会長：20年先のこととなると、環境や生活の状況が変わってくると思う。審議会において、市内6地域の人や識見のある人で様々な意見交換ができたことは良かった。また、行政が行うべきことは、住民が納得・理解していかなければならないと感じた。

市長：答申いただいた「まちづくりビジョン（案）」には、その実現に向けて8つの分野の施策の取組が書かれており、このことは夢が語れて良いと思う。

20年後をイメージしながらどんなロードマップを描き、実現に向けてどのように努力していくかという視点がなければ計画は意味がないので、この「まちづくりビジョン（案）」に丹波市のまちづくりの方向性を示していただいたという点で心から感謝したい。

